

「東京湾再生のための行動計画(第一期)」期末評価(概要)

第一期計画の目標

生態系を回復し多くの生物が棲みやすい水環境となるよう環境の保全・再生・創造を図り、自然と共生した首都圏にふさわしい東京湾を目指すため次の目標を設定した。

快適に水遊びができ、多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。

この目標の達成状況を判断するため、底層のDO(溶存酸素量)を指標とし、具体的な目標を「年間を通して底層生物が生息できる限度」とした。

第一期計画の評価

東京湾の底層の溶存酸素量(DO)に明らかな改善傾向は認められないものの、化学的酸素要求量(COD)、窒素、リンの発生汚濁負荷量は着実に減少し、再生された浅場や干潟で生物の生息が確認されるなど、取組に対する一定の成果が認められた。

第一期の取組の成果

陸域

取組

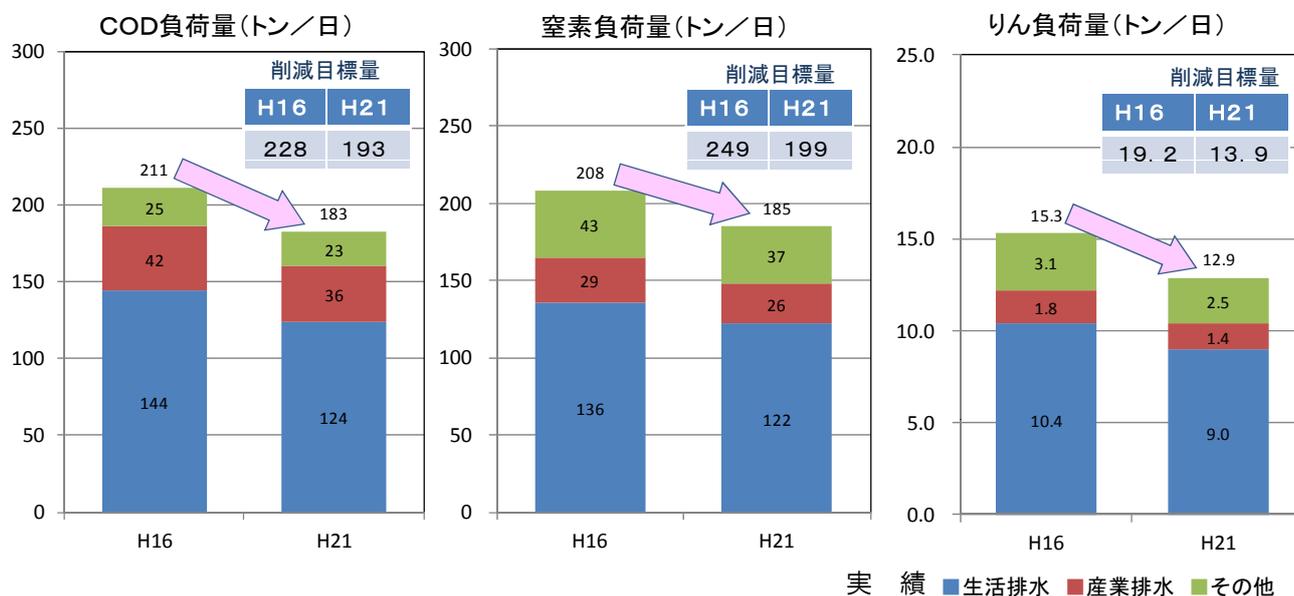
成果

○陸域排出負荷量の着実な削減

水質総量削減制度に基づき各都県が策定する総量削減計画の着実な実施及び事業場に対する総量規制基準の遵守の徹底等を図るとともに、流域単位において、関係機関等と連携のもと、高度処理、面源汚濁負荷対策等を含めた効率的、総合的な負荷削減のための計画策定及び事業を実施した。

平成16年から平成21年度までの5カ年で
COD負荷量では28トン/日
窒素負荷量では23トン/日
りん負荷量では2.4トン/日
を削減した。

東京湾の汚濁負荷は着実に減少



第一期の取組の成果

海域

取組

- ・浚渫土砂を活用した覆砂: 406,700m³
- ・運河等の汚泥浚渫: 308,300m³
- ・干潟・浅場・海浜等の創出: 8.5ha
- ・生物共生型護岸の整備: 13.9ha
- ・深掘り跡の埋戻し: 1,500m³
- ・清掃船等による浮遊ゴミの回収: 74,867m³
- ・NPOや漁業者等によるゴミの回収: 44.3t

成果

取組を実施した周辺海域では、水・底質の改善や、生物の種類・個体数の増加が確認された。

取組にあたり、研究機関の連携のもと市民と協働でモニタリングを実施し、自然体験・環境学習の場を提供できた。

再生した干潟等において
生物生息環境が改善

東京湾での取組箇所



○: 行動計画策定以前から存在していた干潟・浅場・海浜等

モニタリング

取組

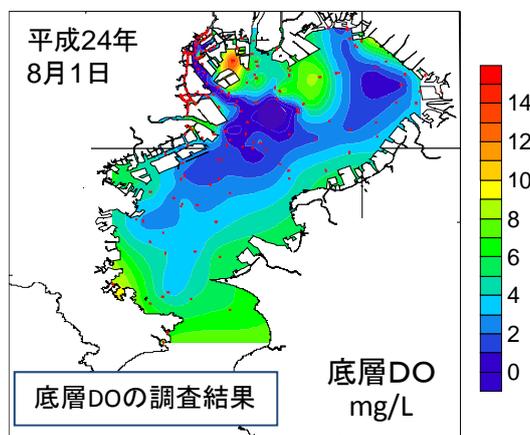
様々な主体の参加した東京湾の環境モニタリングを実施

- ・東京湾水質一斉調査
- ・モニタリングポストの設置
- ・モニタリングデータの共有化及び発信
- ・市民参加型のモニタリング活動

成果

モニタリングの結果、東京湾の底層DOに明らかな改善傾向は認められないものの、有識者からの外部意見を取り入れた発展的なモニタリング施策の実施により、東京湾奥の貧酸素水塊の挙動や海水交換の特徴等、様々な現象が明らかになった。

東京湾奥の貧酸素水塊の
挙動等が明らかになった。



※DO: 溶存酸素量



東京湾クリーンアップ大作戦